

平成29年度

第3回中央区環境行動計画推進委員会

日 時 平成29年11月7日(火) 14:00～15:45

場 所 中央区立環境情報センター研修室

【議事概要】

(議題) 中央区環境行動計画の改定について

資料1：中央区環境行動計画2018（仮称）中間のまとめ（案）

資料2：地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の二酸化炭素排出量削減目標の設定

※資料1：中央区環境行動計画2018（仮称）中間のまとめ（案）

31ページ 3-1 望ましい環境像について

●委員

①「地球にやさしく」

→人にもやさしいイメージを出したい。「人と地球にやさしく」としたらどうか。

②「未来につなぐ」

→何をつなぐのかを明確にするため、「歴史を未来につなぐ」としたらどうか。

③「人」や「歴史」を加えると、長い文章になってしまう。「水とみどりにかこまれ」

を削除してもよいのでは。

●委員

①「地球」には「人」も含まれていると広く解釈すべきである。

②「未来につなぐ」のは、「美しい環境」であり、その中には「歴史」も含まれると広く解釈すべきである。

③「水とみどりにかこまれ」は、区の目指す姿を示した重要な表現なので、削除するべきではない。

12ページ (3) 気象に関することについて

●委員

熱中症による救急搬送のデータが削除されているが、熱帯夜（図2-18）との関連から残しておいてもよいのでは。

●委員

（3）の構成全体を見直したほうがよい。

①「（3）気象に関すること」を「（3）気候変動に関すること」にする。

②「●気候変動」を「●気象」とする。

③「●気象」のなかに「図2-18 熱帯夜・冬日の日数」を入れ、図2-19として「熱中症の救急搬送者数」を入れる。

④「●集中豪雨」を新たに追加にし、図2-20として「大雨の発生回数」を入れる。

13ページ （4）大気・水質に関することについて

●委員

①表2-1以下、他のページも含め、題名は表の上に記載すべきである。

②光化学オキシダントの数値は、河川水質調査と同様、環境基準非達成の場合は、□(四角)で囲むべきである。

③水生生物の調査結果について

(ア)表2-3では、採取した魚類の単位（匹）を入れるべきである。

(イ)表2-4では、採取した魚類の●が何を意味するか、補足説明するべきである。

21ページ 良好なまちなみや景観の形成について

●委員

街角広場や緑道の整備が計画どおりに進捗しなかったとあるが、その理由を具体的に記載すべきである。

8ページ 図2-10～11 エネルギー消費量の円グラフについて

図2-12の棒グラフと比較すると、各部門の色が揃っていない。統一してほしい。

26ページ 2-4 新計画への反映について

●委員

前回の資料では、見出しが新計画への反映（今後の方向性）となっていたが、（今後の方向性）が削除されている。本文中にも、同様の表現があるので、それも削除すべきである。

26ページ 新たな基本目標 2 循環型社会について

「新たに独立した目標」とあるが、「組替え・整理により新たに設定した目標」とい

う表現はどうか。

27～30ページ 意識調査に関する記述について

文章が長くなり、読みにくいので、削除したほうがよい。巻末の資料編に載せれば十分だと思う。

27～30ページ 文末の表現について

ほとんどの文章が「何々する必要がある」で終わっている。統一するのではなく、内容に応じて表現に違いを出したほうがよい。

39ページ 4-1 施策の体系について

●委員

No.17 環境美化の推進には、ペット（犬猫）の排泄物への対応は含まれないのか。

●区

ペットの問題は、福祉保健部の所管となる。本計画は、環境土木部が所管する事業を対象とするから、きちんとした線引きが必要である。

●委員

No.12 緑化の促進には、「中央区の森」事業は含まれないのか。

●区

No.12は、区内における緑化促進を目的とするので、「中央区の森」事業は該当しない。

●委員

No.18 環境意識の普及・啓発には、なぜ含まれるのか。

●区

「中央区の森」事業は、地球温暖化に資する側面と環境意識の普及・啓発に資する側面を有しているためである。

●委員

36ページ 3-3 指標について

中央エコアクトは、基本目標 1（低炭素社会）における取組なので、基本目標 5（学びと行動の輪）では、再掲とすべきである。

40～50ページ 具体的な取組について

再掲がいくつかあるが、説明文をわざわざ載せる必要はないと思う。

●委員

再掲元の基本目標や施策の番号を示せばよいと思う。

現行計画策定後に開始された事業が★印となっているが、ほとんどが基本目標 1（低炭素社会）に偏っている。従来からの事業であっても、新しい視点で取り組んでいくものがあれば、それらを★印にする方法もある。

●区

現行計画策定後、多くの温暖化対策事業が開始となった経緯があるため、基本目標 1（低炭素社会）に偏っている。

●委員

どれが重要な取組なのか。

●区

第4章にある取組が全て重要なものと認識している。

●委員

社会情勢の変化に応じて、より重要になってくる事業に★印をつける方法もある。

例えば、事業所から出る食品廃棄物への対応は、まさにその一例である。

●区

どの取組も重要であり、優劣を判断するのが難しい。

●委員

現行計画との違いは何か。

●区

新計画では、重点プロジェクトのような位置づけはなく、既存事業のさらなる推進を図ることを基本的な考え方としている。

●委員

★印は、読む側にしてみれば、重要な取組であるとの印象を受けてしまう。

●委員

どんな視点で「具体的な取組」としたのか、その点をわかりやすく記述してほしい。

●委員

バリアフリーに関する取組はないのか。

●区

29ページ ④（キ）のように、あくまでもバリアフリー化も視野に入れた取組を行っていくという記載に留めている。本計画の趣旨からして、バリアフリーに関する具体的な取組は記載しない。

4～17ページの各グラフについて

●委員

グラフの縦軸には、何を意味するか、タイトルをつけるべきである。

7ページ 図2-8 土地利用面積の円グラフについて

●委員

右側の円グラフは、宅地の用途別の割合を示しているようだが、一見わかりにくい。宅地の利用比率を100とした場合などの補足説明を入れるべきである。

4～24ページの各文章について

●委員

文章と図表の関係を明確にすべきである。例えば、文中に「図に示すように」「表のとおり」などの表現を入れてほしい。

※資料2：地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の二酸化炭素排出量削減目標の設定

将来推計について

●委員

推計値と2030年に想定される区の姿（人口・世帯数増など）との整合性を検証する必要があるので、推計方法を示してほしい。

●委員

国や都とほぼ同レベルの目標だが、どのような推計に基づくのかをきちんと示す必要がある。

●委員

新築物件の省エネ性能向上を見込む必要があるが、世帯数や業務系延床面積等のみに着目して考えていくなら、その旨きちんと明記しておいたほうがよい。

●委員

法（建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律）改正により、新築物件の省エネ化がますます推進されていくなか、既存物件に対してどう対応していくかが今後の大きな課題である。

●委員

現状すう勢（BAU）に関する説明が「現状から追加的な対策を見込まないまま推移する」とあるが、国も同じような説明なのか。

- 区

環境省の計画策定マニュアルにおいて、同様の説明をしている。

削減見込量について

- 委員

2030年での削減見込量を算出した根拠をきちんと示してほしい。

- 委員

電力排出原単位の低減をどの程度見込んでいるのか。

- 区

産業、家庭、業務の部門別に振り分けて算出すると、半分程度の削減が見込まれる。

その他

- 委員

削減目標の年度が、新計画の期間終了後であることを明記しておいてほしい。

各委員からの意見を踏まえ、本資料を修正のうえ、メールで送ってほしい。

- 区

ご指摘のとおり対応する。

- 区

資料1「中間のまとめ（案）」について

各委員皆さまからのご意見については、委員長一任により反映させていく。

今後のスケジュールについて

区長及び区議会への報告後、12月にパブリックコメントを実施する。

次回の日程について

2月中の開催予定だが、区議会日程を考慮し、別途調整のうえ、ご連絡する。

以上